



2020年1月10日

各位

上場会社名 シグマ光機株式会社
 代表者 代表取締役社長 近藤 洋介
 (コード番号 7713)
 問合せ先責任者 執行役員管理本部長 菊池 健夫
 (TEL 03-5638-8221)

2020年5月期第2四半期業績予想と実績の差異 及び 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2019年7月8日に公表した2020年5月期第2四半期累計期間(連結・個別)の業績予想と、本日公表の同実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、同じく2019年7月8日に公表した2020年5月期通期(連結・個別)の業績予想を下記の通り修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想と実績の差異について

2020年5月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績の差異(2019年6月1日~2019年11月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,540	525	580	365	51.53
実績値(B)	4,299	397	452	295	41.75
増減額(B-A)	△240	△127	△127	△69	
増減率(%)	△5.3	△24.3	△22.0	△19.0	
(ご参考)前期第2四半期実績(2019年5月期第2四半期)	4,608	710	797	531	75.06

2020年5月期第2四半期個別累計期間の業績予想と実績の差異(2019年6月1日~2019年11月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,040	510	335	47.30
実績値(B)	3,772	430	293	41.37
増減額(B-A)	△267	△79	△41	
増減率(%)	△6.6	△15.6	△12.5	
(ご参考)前期第2四半期実績(2019年5月期第2四半期)	4,120	660	453	64.08

2. 通期業績予想の修正について

2020年5月期通期連結業績予想数値の修正(2019年6月1日~2020年5月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,230	1,130	1,255	840	118.60
今回修正予想(B)	8,640	715	825	550	77.65
増減額(B-A)	△590	△415	△430	△290	
増減率(%)	△6.4	△36.7	△34.3	△34.5	
(ご参考)前期実績(2019年5月期)	9,047	1,123	1,246	828	116.93

2020年5月期通期個別業績予想数値の修正(2019年6月1日~2020年5月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,200	1,055	720	101.66
今回修正予想(B)	7,545	770	535	75.54
増減額(B-A)	△655	△285	△185	
増減率(%)	△8.0	△27.0	△25.7	
(ご参考)前期実績(2019年5月期)	8,064	1,044	699	98.79

3. 2020年5月期 第2四半期累計期間（連結・個別）業績予想と実績の差異の理由

売上高は、米中貿易摩擦の影響や英国のEU離脱問題等といった世界景気の減速感を背景に、主にフラットパネルディスプレイ・電子部品・半導体業界向けにおいて一部顧客の生産・在庫調整の影響を受けました。これにより、光学素子・薄膜製品や光学ユニット製品の需要が弱含みで推移し、期初予想を下回りました。利益面につきましては、産業分野向けの光学素子・薄膜製品や光学システム製品の売上高の減少、海外グループ子会社の増員等の販売管理費の増加等により、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに期初予想を下回りました。

4. 2020年5月期 通期（連結・個別）業績予想の修正の理由

国内市場の足元の受注環境では電子部品・半導体業界やバイオ・医療業界などで回復の兆しが見られており、新規開発製品の売上寄与及び海外事業拡大の推進による売上高の拡大予測等の明るい材料も出始めています。しかしながら、米中貿易摩擦の長期化、政治情勢の不安定化により世界景気の先行きに不透明感が増していることから、本格的な業績の回復には至らないと見通しまして、通期の売上高を下方修正することといたしました。利益面についても、生産の効率化及び全社的な経費削減等の利益改善活動に努めてまいりますが、売上高の減少と開発性の高い高難度案件の戦略的な取り込み等による製造コストの増加等の見通しにより、営業利益、経常利益、当期純利益ともに期初予想を下方修正することといたしました。

※ 上記の業績予想につきましては、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。又、今後様々な要因により実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

以 上